

パネルディスカッション2

「炎症性腸疾患における内視鏡診療の最前線」

司会 渡辺 憲治（富山大学炎症性腸疾患内科）

江崎 幹宏（佐賀大学医学部内科学講座消化器内科）

炎症性腸疾患で近年推奨されている診療方針である treat to target において内視鏡的寛解は治療目標とされており、クローン病では大腸のみならず小腸病変の評価も重要である。更に関連腫瘍早期発見を目指したサーベイランス内視鏡や狭窄病変に対する内視鏡治療、各種バイオマーカーや画像診断との相補的な使い分けなど、炎症性腸疾患における内視鏡診療には様々な課題が残されている。本セッションではこうした臨床現場での課題を interactive に討議して参りたい。課題に挑む意欲的な演題を期待している。